

住み続けられる

たむぎの

田麦野を目指して



イラストのためきは田麦野地域づくり委員会発行の「たむぎのMAP」から引用。「たむぎのMAP」は東北芸術工科大学の学生が作成。

「田麦野みらい計画」ができるまで

天童市の東に位置し、三方を山々に囲まれた中山間地域である田麦野地区。かねてから人口減少・担い手の高齢化の問題を抱えていた同地区では、国土交通省が推進する地域管理構想策定推進対策事業の実施をきっかけに、これからの地域について世代や性別を超えて住民みんなが話し合うことになった。懇談会では「後継者がいない」「鳥獣被害がひどい」など地域に対する不安の声も目立ったが、同時に「景色がきれい」「自然の恵みが豊富」など地区の良さや強みについても住民が再確認する場となった。

数回の懇談会やアンケートを経て、重点的に取り組むテーマを「空き家」「農地」「生活環境」と設定。さらにテーマごとに話し合い、地域づくりの道しるべとなる「田麦野みらい計画」を令和6年3月に策定した。

テーマごとの取組方針に基づき、それぞれが目指す田麦野の姿に向かって新たな取組みを進めていく。

取組方針

- 空き家** 空き家の所有者を支援し、移住者の受け入れを促進する
- 農地** 農地を守っていくため、より具体的な行動計画を作成する
- 生活環境** いきいき輝く地域を目指し、マルシェを開催する



田麦野ってどんなところ？

人口 138 人、71 世帯 (R5.4 現在)。「やまがたの棚田 20 選」に選定されている「田麦野の棚田」が広がり、稲刈り後は昔ながらのくい掛けの風景も見られる。そば (でわかおり) も特産品のひとつで、冬に開催される「一日おそば屋さん」には県内外から多くの方が訪れる。ショッピングモールや天童駅、山形空港まで車で 20 分ほどと、自然に囲まれていながら暮らしやすく、首都圏をはじめ県外からの移住者も増えている。



田麦野地区
HPはこちら！



【主なイベント】

8月 キャンドルナイト 10月 里山コンサート 12月 一日おそば屋さん



「天ぷらどうぞー！」の声に来場者は大喜び



「調理法は？」など会話しながらお買い物

マルシェ「たむぎのでした〜」の開催
「生活環境」の検討部会を経て結成したグループ「ke・たむぎの」を中心として、地区では産直マルシェ「たむぎのでした〜」を企画。県の「元気な農村づくりスタートアップ支援事業」を活用し、6月の開催に向け必要な物品やPRチラシなどを準備していった。初の開催だったことから、出品物(野菜・山菜)の確保や、集客面に不安がある中で当日を迎えたが、開始早々からたくさんの方が訪れ、新鮮な野菜や山菜を求めて会場は賑わった。来場者に振る舞われた山菜の天ぷらや山菜汁は大好評。屋内会場には住民手作りの雑貨などが並び、作品を通して住民と来場者との交流が生まれていた。



手作りの工芸品も並ぶ。こちらは一閑張り

「ke・たむぎの」インタビュー

● 土井友希子さん (ke・たむぎの 代表)

計画づくりには移住者や女性などさまざまな人が関わり、多様な意見が出されたことで地域が少し前に進んだと感じています。とてもいい機会になりました。初めてのマルシェではみんなで考え、一緒に手を動かしていくことで、身の回りにあるものが“宝物”に変わっていくのが実感できました。

● 杉山利子さん (ke・たむぎの 副代表)

初めは「この時期に出せる山菜や野菜はない」と言われたりもしたけれど、準備が進むにつれ、地区のみんなが「なんとかしよう」と協力してくれたことがとても良かったです。

● 菅原たみ子さん (ke・たむぎの 会計担当)

マルシェを開催できたことで、地域が「やればできる」と前向きな雰囲気になってきたことがうれしいです。メンバーからは新しいアイデアも挙がっていて、次の開催(今秋予定)に向けて準備を進めているところです。



写真左から菅原さん、土井さん、杉山さん